

# ***UHFシンセサイザー ワイヤレスマイクロホン***

---

## **取扱説明書**

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、  
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

## **WRT-807**

# 安全のために

ソニー製品は安全に十分に配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。  
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

## 安全のための注意事項を守る

4~5ページの注意事項をよくお読みください。

## 定期点検を実施する

長期間安全に使用していただくために、定期点検を実施することをおすすめします。点検の内容や費用については、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

## 故障したら使用を中止する

ソニーのサービス担当者、または営業担当者にご連絡ください。

## 万一、異常が起きたら

- ・煙が出たら
- ・異常な音、においがしたら
- ・内部に水、異物が入ったら
- ・製品を落としたり、破損したときは

炎が出たら

- ➔ ① 電源を切る。  
② 電池を抜く。  
③ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に修理を依頼する。
- ➔ すぐに電源を切って、電池を抜き、消火する。

### 警告表示の意味

この取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

### 注意を促す記号



火災



破裂



高温

### 行為を禁止する記号



禁止



分解禁止

本機は、電波法により工事設計の認証を受けており、認証番号は機銘板に記載されています。本機の内部を改造して使用したりすることは、電波法で禁じられています。

使用時に外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じことがあります。このような場合は、電波の発射を停止する(電源を切る)か、あるいは周波数の変更(チャンネルの切り換え)を行ってください。

# 目次

本機の性能を保持するために .....	3
△注意 .....	4
電源についての安全上のご注意 .....	5
概要 .....	6
特長 .....	6
チャンネルプラン .....	8
各部の名称と働き .....	9
電源 .....	12
設定 .....	13
設定モードの選択 .....	13
送信チャンネルの選択 .....	13
アッテネーターレベルの調整 .....	14
累積使用時間表示のリセット .....	15
故障かな？と思ったら .....	16
主な仕様 .....	18
エラーメッセージ .....	19
保証書とアフターサービス .....	裏表紙
保証書について .....	裏表紙
アフターサービスについて .....	裏表紙

# 本機の性能を保持するために

- 本機の許容動作温度は0 ~ 50 です。ただし、常時高温となる場所や、直射日光のある場所では、表面が変色したり、不具合が生じることがありますのでご注意ください。また、ライトやパワーアンプなどの発熱体の上や近くには置かないでください。
- 水分やほこりの多い所、活性ガスにさらされる所で使用したあとは、早めに端子部や本機表面のお手入れを行ってください。お手入れを怠ったり、このような場所で長時間使用したりすると、機器の寿命を縮める恐れがありますので、ご注意ください。
- 表面の汚れは、乾いた柔らかい布でふきとってください。シンナーやベンジンなどの薬品類は、表面の仕上げをいためますので使わないでください。



## 注意 下記の注意を守らないと、けがにつながることがあります。



分解禁止

### 分解しない、改造しない

分解したり、改造したりすると、けがの原因となります。内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。



禁止

### 内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると、乾電池がショートしてけがの原因となることがあります。

万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、接続ケーブルを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

# 電池についての安全上のご注意

ここでは、本機での使用が可能な乾電池についての注意事項を記載しています。

## 万一、異常が起きたら

煙が出たら

- ① 機器の電源スイッチを切るか、電池を抜く。
- ② ソニーのサービス窓口に連絡する。

電池の液が目に入ったら

すぐきれいな水で洗い、直ちに医師の治療を受ける。

電池の液が皮膚や衣類に着いたら

すぐきれいな水で洗い流す。

バッテリー収納部内で液が漏れたら

よくふきとつてから、新しい電池を入れる。



警告

下記の注意事項を守らないと、破損・液漏れにより、死亡や大けがなどの人身事故になることがあります。



破裂



高温

- 乾電池は充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- 指定された種類の電池を使用する。



注意

下記の注意事項を守らないと、破損・液漏れにより、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。



破裂

- 使用推奨期限内（乾電池に記載）の乾電池を使用する。
- $\oplus$ と $\ominus$ の向きを正しく入れる。
- 電池を入れたまま長期間放置しない。

# 概要

UHFシンセサイザーウイヤレスマイクロホンWRT-807は、800 MHz帯特定小電力無線局B型のUHFワイヤレスマイクロホンシステム用送信機です。PLLシンセサイザー方式で、B型全30チャンネルから任意の1チャンネルを選択できます。

ソニー UHFシンセサイザーチューナー WRR-800/WRR-801/WRR-802/WRR-805/MB-806、UHFアンテナ AN820と組み合わせることにより、ボーカル収音を目的とするワイヤレスマイクロホンシステムを構成できます。

また、UHFシンセサイザートランシッターWRT-810/820/830やUHFシンセサイザーチューナーWRR-810/820/840/850などで構成される従来のソニーウイヤレスマイクロホンシステムと組み合わせて使用することもできます。

## 特長

PLLシンセサイザー方式

簡単なボタン操作で、B型の帯域の全30チャンネルの切り替えが可能です。チャンネルプランの適用により、最大7チャンネルの同時運用が可能です。

HOLD機能付きのPOWERスイッチ

電源をONにした状態で、スイッチのホールドが可能です。運用中の誤操作を防止できます。

受信機でのバッテリーアラーム確認機能

WRR-800/WRR-801/WRR-802/WRR-805/WRR-850/MB-806のバッテリーアラーム表示機能により、本機電池の消耗を前もって警告することができます。

電池が完全に消耗する約1時間前にWRR-800/WRR-801/WRR-802/WRR-805/WRR-850/MB-806のバッテリーアラーム表示が点滅し、電池切れによる音切れ事故を未然に防ぐことができます。

単3形乾電池で長時間動作

高性能DC-DCコンバーターの搭載により、単3形アルカリ乾電池1本で、連続で約5時間動作します。

## 多彩な情報表示

液晶ディスプレイに、送信チャンネル、送信周波数、アッテネーターレベル、電池の状態など、各種の情報を集中表示します。さらに1分刻みの積算型使用時間表示機能により、電池の交換時期を容易に管理できます。

## チャンネル/入力アッテネーター設定のバックアップ

電源を切っても、チャンネルおよび入力アッテネーターの設定は保持されます。次に使用するときも、再設定の必要はありません。

## 信頼性の高い電子アッテネーター

内蔵の入力レベルアッテネーターにより、入力減衰量を0～21 dBの範囲で3 dB刻みで調整できます。

## トーン信号回路を内蔵

チューナー側の受信待機時のノイズを防ぐトーンスケルチ回路をコントロールするトーン信号回路が内蔵されています。

## 広ダイナミックレンジ/低ノイズ

コンバンダー(コンプレッサー/エクスパンダー)伝送方式により、無線伝送系の外來雑音を最小限に抑え、広域エリアでの運用が可能です。

## 使用上のご注意

安定した動作を保つため、以下の点にご注意ください。

- マイク同士は30 cm以上離す。
- マイクと受信アンテナは3 m以上離す。

# チャンネルプラン

## 送信チャンネルと周波数

B型標準チャンネルプランの6グループ計30チャンネルを切り換えて使用できます。<sup>10</sup>の位がグループ番号、1の位がチャンネル番号になります。

本機の送信チャンネルは、必ずチューナーの受信チャンネルと合わせて設定してください。

周波数表

チャンネル	送信周波数(MHz)	チャンネル	送信周波数(MHz)
B-11	806.125	B-41	806.750
B-12	806.375	B-42	807.500
B-13	807.125	B-43	808.000
B-14	807.750	B-44	809.125
B-15	809.000	B-45	809.375
B-16	809.500	B-46	809.750
B-21	806.250	B-51	807.625
B-22	806.500	B-52	808.125
B-23	807.000	B-53	808.375
B-24	807.875	B-54	808.750
B-25	808.500	B-55	809.625
B-31	806.625	B-61	807.250
B-32	806.875		
B-33	807.375		
B-34	808.250		
B-35	808.625		
B-36	809.250		

## 7チャンネル同時運用プラン

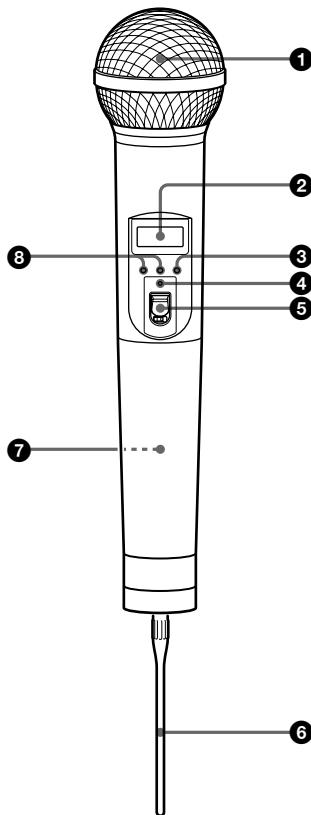
次の2つのチャンネルプランのいずれかを使用すると、最大7チャンネルの同時運用が可能です。

	プラン1	プラン2
チャンネル	B-11	B-13
	B-12	B-14
	B-33	B-16
	B-36	B-21
	B-52	B-25
	B-54	B-31
	B-55	B-46

## システム使用上の注意

- 同一エリア(電波が届く範囲)内の使用は1グループのみ可能です。
- 異なるグループを同時に使用する場合は、グループ間の距離を30m以上離せば、最大30チャンネルの使用が可能です。
- 仕切りや障害物がなく見通せる広い空間で、2つ以上のシステムで同じグループを使用する場合は、互いに100m以上離してください。
- 外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルがある場合は、本機の電源をOFFにしたままチューナーのチャンネルを切り換え、チューナーのRFインジケーターが点灯しない(雑音や妨害電波の影響を受けていない)チャンネルを選択したあと、本機を同じチャンネルに設定して使用してください。

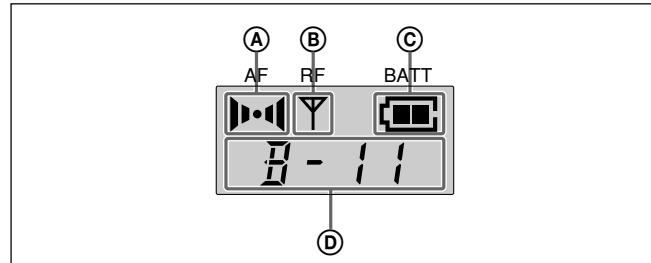
# 各部の名称と働き



## ① ウィンドスクリーン

風などによる雑音の発生を抑えます。

## ② 液晶ディスプレイ



### Ⓐ AF(オーディオ)表示

基準レベル以上の音声信号が入力されると点灯します。

### Ⓑ RF(アンテナ出力)表示

アンテナから電波を送出しているとき点灯します。

### Ⓒ BATT(電池残量)表示

電池の状態を表示します。

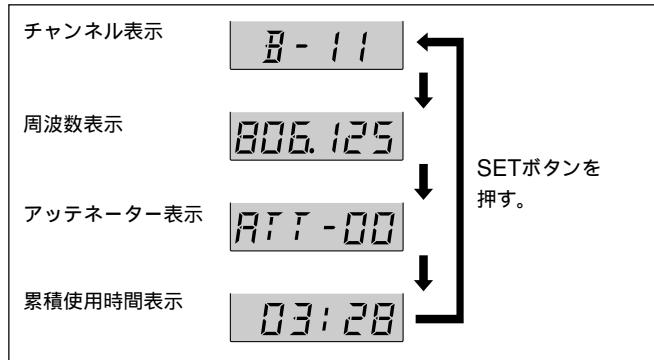
「電池表示」(12ページ)をご覧ください。

## 各部の名称と働き

### ② CH(チャンネル)表示

送信チャンネルを表示します。

通常の送信モードでは、SETボタンを押すたびに、次のように切り換わります。



周波数表示：現在選択されているチャンネルの送信周波数を表示します。

アッテネーター表示：入力減衰量(単位dB)を表示します。減衰量は0～21dBの範囲で、3dB刻みで調整できます。

累積使用時間表示：電池の累積使用時間を1分刻みで表示します。電池交換時にリセットしてください。

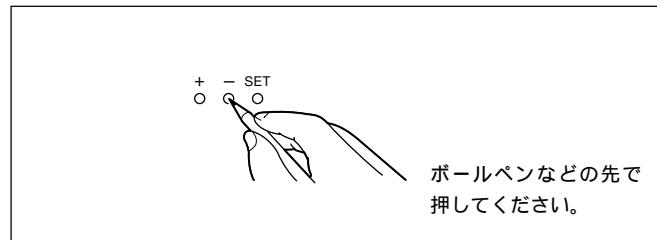
調整およびリセットの方法については、それぞれ「アッテネーターレベルの調整」(14ページ)「累積使用時間表示のリセット」(15ページ)をご覧ください。

### ③ SET(設定)ボタン

通常の送信モードでは、液晶ディスプレイの下段の表示内容を切り替えます。

このボタンを押しながらPOWERスイッチをONにすると、設定モードになります。設定モードでは、このボタンで設定項目を切り替えます。

SETボタン、+/-ボタンの押しかた



設定モードについては、「設定」(13ページ)をご覧ください。

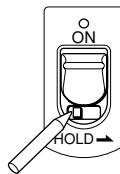
#### ④ POWER(電源)インジケーター

本機の電源が入ると点灯します。

#### ⑤ POWER(電源)スイッチ(HOLD機能付き)

本機の電源をON/OFFします。スイッチを単独でONにすると通常の送信モードになり、設定されているチャンネルの電波が送信されます。HOLD機能は、POWERスイッチがONの状態で設定できます。HOLDつまみをロック状態にすることにより、POWERスイッチの誤操作(電源OFF)を防止することができます。

##### HOLDのしかた



ボールペンなどの先で、右端  
まで確実にスライドさせる。



ロック状態  
黄色のマークが見えます。

#### ⑥ アンテナ

#### ⑦ 電池ホルダー

乾電池を挿入します。

詳しくは、「電源」(12ページ)をご覧ください。

#### ⑧ + (+選択)/ - (-選択)ボタン

設定モードで、送信チャンネルやアッテネーターレベルを選択します。

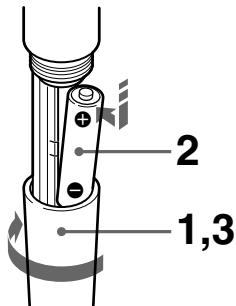
- ボタンは、累積使用時間のリセットにも使用します。

設定モードについては、「設定」(13ページ)をご覧ください。

# 電源

本機はソニーの単3形アルカリ乾電池(LR6)1本で、常温(25℃)で連続約5時間動作します。

乾電池を入れるには



- 1 グリップを回して、電池ホルダーを開ける。
- 2 電池の極性を合わせて、単3形乾電池を挿入する。
- 3 電池ホルダーを閉め、グリップを逆方向に回して固定する。

## ⚠️ 警告 ⚠️ 注意

乾電池についての安全上のご注意については、5ページをよくお読みください。

## 電池表示

電源をONになると、液晶ディスプレイのBATT表示部に電池の状態が表示されます。

	1	2	3	4
BATT 表示	点灯	点灯	点滅	消灯
乾電池の 状態	良好です。	残量が半分 以下です。	ほとんど消耗 しています。	完全に消耗 しています。

## ご注意

交換時に入れた電池が新品でなかったときは、電池の残量が正しく表示されない場合があります。

長時間続けて使用する場合は、新しいアルカリ乾電池と交換してからお使いになることをお勧めします。

# 設定

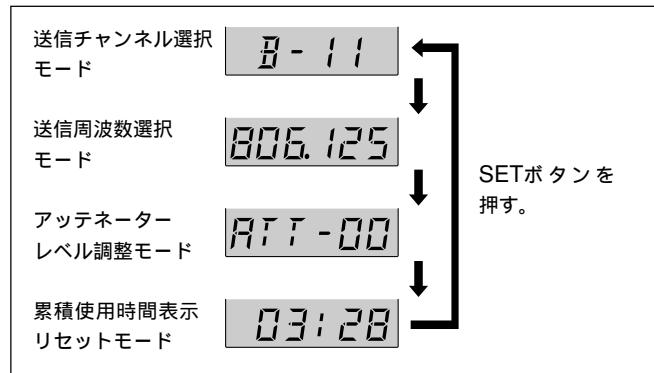
## 設定モードの選択

設定モードでは、送信チャンネル/送信周波数とアッテネーターレベルの変更と、累積使用時間表示のリセットを行います。

設定モードにするには

SETボタンを押しながらPOWERスイッチをONにする。  
液晶ディスプレイに表示が出るまでSETボタンを押し続けてください。

本機が設定モードになり、前回電源を切ったときの表示が点滅します。  
SETボタンを押すたびに、送信チャンネル選択モード、送信周波数選択モード(右記)、アッテネーターレベル調整モード(14ページ)、累積使用時間表示リセットモード(15ページ)に切り換わります。



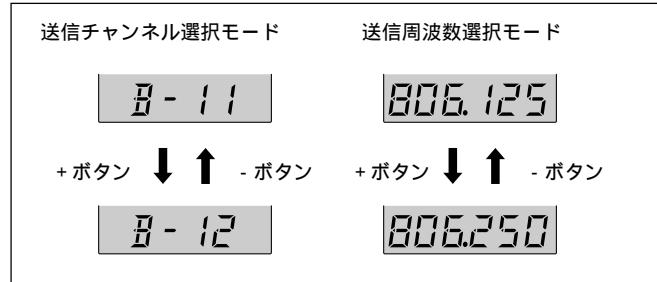
## 送信チャンネルの選択

送信チャンネルは、チャンネル番号と周波数のどちらでも選択することができます。

1 本機を設定モードにする。

チャンネル番号(または周波数)が表示されていないときは、SETボタンを押してチャンネル(または周波数)表示に切り換えてください。

2 +または-ボタンを押して、チャンネル(または周波数)を選択する。  
+ボタンを押すと「周波数表」(8ページ)の順にチャンネル(または周波数)が切り換わり、-ボタンを押すと逆方向に切り換わります。



押し続けると、連続して切り換わります。

- 3 希望のチャンネル(または周波数)が表示されたら、POWERスイッチをOFFにして設定モードを解除する。  
引き続き設定モードを使用するときは、SETボタンを押す。

次にPOWERスイッチを単独でONにして電源を入れると、選択したチャンネル(または周波数)での送信モードになります。

## ご注意

- 設定モードでは送信できません。
- 同一システム内で使用しているチューナーと同じチャンネルに設定してください。
- 外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルがある場合は、本機の電源をOFFにしたままチューナーのチャンネルを切り替え、チューナーのRFインジケーターが点灯しない(雑音や妨害電波の影響を受けていない)チャンネルを選択した後、本機を同じチャンネルに設定して使用してください。
- 設定モードから電源をOFFにした直後に、電源を再度ONにすると、正しく動作しない場合があります。数秒待ってから電源をONにしてください。

## アッテネーターレベルの調整

アッテネーターレベル(入力減衰量)を、0 dB ~ 21 dBの範囲で、3 dB刻みで調整できます。調整は、設定モード、送信モードのどちらでも行えます。

### 設定モードでの調整

- 1 本機を設定モードにする。
- 2 アッテネーターレベルが表示されていないときは、SETボタンを押してATT表示に切り換える。
- 3 +または-ボタンを押して、レベルを選択する。



押し続けると、連続して切り換わります。

- 4** 希望のレベルが表示されたら、POWERスイッチをOFFにして設定モードを解除する。  
設定モードでの操作を続けるときは、SETボタンを押す。

次にPOWERスイッチを単独でONにして電源を入れると、選択したレベルでの送信モードになります。

#### 送信モードでの調整

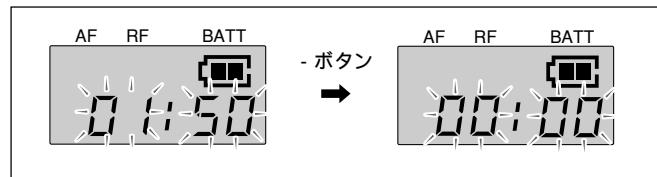
送信中にアッテネーターレベルを調整することもできます。

- 1** アッテネーターレベルが表示されていないときは、SETボタンを押してATT表示に切り換える。
- 2** +または-ボタンを押してレベルを選択する。

#### 累積使用時間表示のリセット

累積使用時間表示は、本機の通電時間の累積を、時および分で表示します。電池を交換したときにこの表示を「00:00」にリセットし、電池の使用時間の目安として使用してください。

- 1** 本機を設定モードにする。
- 2** 累積使用時間が表示されていないときは、SETボタンを押して累積使用時間表示に切り換える。
- 3** -ボタンを押す。  
表示が「00:00」にリセットされます。



「00:00」が表示されている間は、+ボタンを押して元の値に戻すことができます。

- 4** POWERスイッチをOFFにして、設定モードを解除する。

# 故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	意味/対策
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"><li>電池の+、-が逆になっている。正しい方向に入れ直してください。</li><li>電池が消耗している。新しい電池に交換してください。</li><li>電池端子が汚れている。プラス端子、マイナスプリング端子を綿棒でクリーニングしてください。</li></ul>
電池がすぐになくなる。	<ul style="list-style-type: none"><li>電池が消耗している。新しい乾電池に交換してください。</li><li>マンガン電池を使用している。マンガン電池の持続時間はアルカリ乾電池に比較して半分以下になりますので、アルカリ乾電池を使用してください。</li><li>寒い環境で使用している。低温時では電池寿命が短くなります。</li></ul>
電源が切れない。	スイッチがロックされている。ロック機能を解除してください。
チャンネルの変更ができない。	SETボタンを押すだけではチャンネル変更できません。電源を切って、SETボタンを押しながら電源を入れ、+ / - ボタンを押して変更してください。
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"><li>LCDの表示が点滅している。チャンネルセットモードになっています。一度電源を切ってから再度電源を入れてください。</li><li>マイクとチューナーのチャンネルが違っている。マイクとチューナーのチャンネルを合わせてください。</li><li>チューナーのAF、RFインジケーターが点灯しない。マイク、チューナーの電源を確認してください。</li></ul>
音が小さい	<ul style="list-style-type: none"><li>ATTの数字が大きい。出力レベルが小さくなっています。-ボタンを押してATTを適正量に設定してください。</li><li>アンプ、ミキサー、チューナーのボリュームが下がっている。ボリュームを上げて適正音量にしてください。</li></ul>

症状	意味/対策
音が歪む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ATTの数字が小さい。または0である。 音声が過大入力です。 +ボタンを押して、音が歪まないようATTを設定してください。</li> </ul>
音切れ、ノイズが発生する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>受信アンテナ接続の不具合。 チューナーやアンテナデバイダーの取説に従って正しい接続をしてください。</li> <li>アンテナデバイダーの電源が入っていない。 アンテナデバイダーの電源が入っていない場合、受信状態は不安定ですので、音切れ、ノイズが発生します。アンテナデバイダーの電源を確認してください。</li> <li>マイクの電源を切ってもチューナーのRFインジケーターが点灯している。 妨害電波が出ています。 チューナーをRFインジケーターが点灯していないチャンネルに設定し、マイクを同じチャンネルに設定してください。2本以上のマイクを使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。</li> <li>2本以上のマイクが同じチャンネルになっている。 同一チャンネルで2本以上のマイクは使用できません。 チャンネルプランに従って各マイクのチャンネルを設定し直してください。</li> <li>チャンネルが同一グループ内の設定になっていない。 2~6本のマイクを使用する場合、各々のマイクが混信しないようにチャンネルプランを設定しています。 使用するマイクを同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。</li> </ul>

# 主な仕様

## 送信部

発振方式	水晶制御PLLシンセサイザー
電波型式	110KF3Eまたは110KF3Eおよび110KF8W
送信周波数	806.125 ~ 809.750 MHz (125 kHz間隔、30波のうち任意の1波)
空中線電力	10 mW
トーン信号	32.768 kHz
電池消耗表示信号	32.782 kHz
アンテナ型式	/4 ワイヤーアンテナ(直付け)

## オーディオ部

マイクロホン型式	単一指向性ダイナミック型
プリエンファシス	50 μs
基準周波数偏移	± 5 kHz (94 dB <sub>SPL</sub> 、変調周波数1 kHz入力時)
最大周波数偏移	± 40 kHz
周波数特性	50 ~ 15,000 Hz
S/N	57 dB 以上(A-weighted、変調周波数1 kHz、 WRR-800/801にて基準周波数偏移時)

## オーディオアンプ

0 ~ 21 dB、3 dBステップ可変

## 最大入力音圧レベル

151 dB<sub>SPL</sub>(アンプ21 dB時)

## 電源

電源電圧	DC 1.5 V(単3形アルカリ乾電池1個使用)
乾電池持続時間	連続約5時間、ソニーアルカリ乾電池LR6使用時 (25 °Cにて)

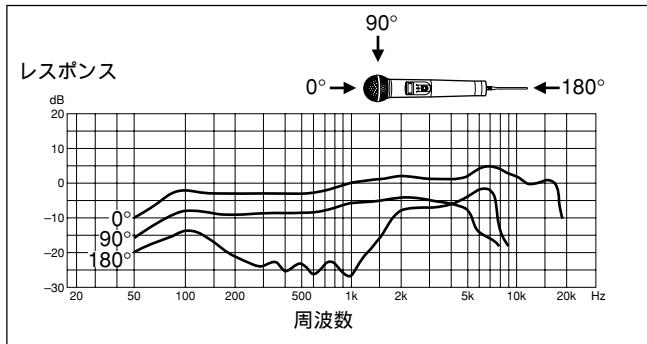
## 一般

許容動作温度	0 ~ + 50
許容保存温度	- 30 ~ + 60
外形寸法	51 × 238(最大直径 / 長さ、アンテナ含まず)
質量	約440 g(電池含む)
付属品	取扱説明書(1) 保証書(1) ソニー業務用ご相談窓口のご案内(1) マイクホルダー(1)

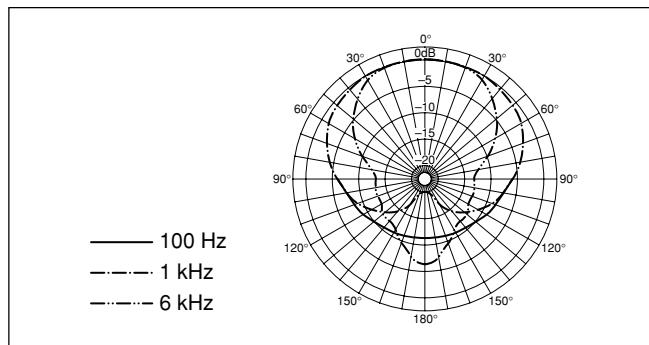
本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります、ご了承ください。

# エラーメッセージ

## 標準周波数特性



## 標準指向特性



液晶ディスプレイには、通常の表示の他に次のようなエラーメッセージが表示される場合があります。

エラーメッセージ	内容	対応
Error 11	バックアップメモリーデータにエラーが発生しました。	データが初期化されました。送信チャンネルとアッテネーター・レベルを再設定してください。
Error 21	PLLシンセサイザー回路に異常があります。	ソニーのサービス窓口にお持ちください。
Error 31	電池電圧が許容値を超えてています。	指定の乾電池をお使いください。
Error 41	内部回路に異常があります。	ソニーのサービス窓口にお持ちください。
Error 51	A/Dコンバーター回路に異常があります。	
Error 61	内部回路に異常があります。	

# 保証書とアフターサービス

## 保証書について

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

## アフターサービスについて

調子が悪いときはまずチェックを  
この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ  
お買い上げ店またはお近くのソニーのサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は  
保証書の記載内容に基づいて修理させて頂きます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は  
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店またはお近くのソニーのサービス窓口にお問い合わせください。



この説明書は、古紙 70% 以上の再生紙を使用しています。

お問い合わせは  
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>

Printed in Japan